

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100841		
法人名	企業組合グループホームつどい		
事業所名	グループホームつどい		
所在地	沼津市島谷5-1		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosin/informationPublic.do?JCD=2271100841&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成21年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携がしっかりしているの、安心してターミナルケアにも臨める。小さなユニットの利点を生かし、細部にわたり、細かな配慮が行き届いている。また、職員の異動がほとんどない。常に介護技術の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道1号線に近い住宅地にあり、利便性とご近所づきあいの両面をもつ地域に立地している。また、庭の花木の手入れも行き届き、建物も平屋で瀟洒なせいか周囲の住宅に溶け込んでい。経営者夫妻が夜勤を担当することで、利用者と一体となったケアとリスク対応、ならびに職員の働きやすさに尽力している。また、その姿勢を職員も受け継ぎ、利用者一人ひとりに声掛けができており、共有空間は笑い声が絶えない。さらに、食事は、メニューの彩、品数、味において大変質が高い。提携医療機関と密な連携ができていことは優位点ではあるが、それに満足することなく、本年からセンター方式に着手し始め、さらなるサービスの質の向上を目指して

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開かれたグループホームとして、地域の方々と共に助け助けられる施設作りに努力する。	施設の理念は掲示されており、管理者や職員も実現に心掛けている。また、昨年の外部評価において、改善向上点としてあった「地域住民との交流」については、理念の中に加えた。さらに、その実現においても祭りの参加など、努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を軸として、近隣の情報を頂きながらできる限りの参加を心がける。	高齢者施設に理解のある地域住民であることに日々感謝しつつ、自治会や消防の活動に加わっている。また、散歩などの外出時には挨拶を交わし、小さな交流の積み重ねも大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公会堂や地区センターに於いて、当事業所の内容や認知症についての講演に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加できない職員は、書面を参考にしながら全員が共有できる努力をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催されている。地域包括支援センター、民生委員、自治会長といった外部の他、施設の職員も加わり、毎回真摯な意見交換が成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いつでも気軽に相談できる関係であるよう日頃から心がけている。	市役所が遠いため、出向くことは少ない。ただし、電話などを利用し、連絡は密にとっている。また、管理者は北部グループホーム連絡協議会に属しており、定例会で直に担当者として話をする機会をもっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令遵守と高齢者の尊厳は、職員に常に語りかけている。	共有空間と居室との距離がないことが功をそうしているのか、職員がすべての利用者の見守りが可能となっている。身体拘束についての外部研修会にも参加している。	総体としては利用者を尊重した対応ができているが、服薬の際、読み上げをしない職員もいた。今後は「どんなことが尊重で、そうでないのは何か」について、具体的な例をあげた所内研修を検討していきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス担当者会議などを利用しながら勉強し高齢者の尊厳を遵守することが虐待防止等へも繋がることを話している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ中、必要性があれば有効活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明の後、疑問や不安はありますかと必ず尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と話す折、外からの意見や家族としての思いを伺うよう心がけている。	家族の訪問や電話には24時間対応を旨としている。また、職員もご家族の意見を業務に反映させようという姿勢を持っている。	「ホームだより」は、ホームの実績と歴史を著わすものでもあり、何よりご家族と想いを共有できる重要な役割がある。定期的な刊行が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	可能な限り時間を作り話し合いの場を設けている。	職員一人ひとりの希望する働き方を重視し、勤務時間やシフトなどを調整している。また、トレーニング、業務配分に関しても「ゆっくり育てる」という方針をもっている。そのためか、職員は管理者へのホウレンソウが丁寧である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体または個々の話し合いの場は、常に儲ける努力はしているし話あってもいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に手に取れるレジメを用意したり、内外においてレベルアップする努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北の連絡協議会を通し、できる限りの参加と他のホーム職員との情報交換に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な説明の後、疑問や不安はありますかと必ず尋ねるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相手の話をよく傾聴し、また話し合いながら共に信頼関係が築ける努力を惜しまない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間の経過とともに支援を継続したり、変更したりしながらの対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の通り、一つの家族としてとの思いでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が良好である中で、ゆるぎない信頼関係が生まれると共に意見交換が活発に行われると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねて来られた方との距離の取り方が大切だと思う。離れすぎず利用者との間に入り込まない距離。	共有空間は一般家庭のリビングサイズであり、決して広くはない。しかし一方で誰もが溶け込みやすいオープンな空間づくりの工夫があり、訪問者を受け入れる体制がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置一つにしても隣りとの係わりを考えながら決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況報告や季節のあいさつなど手紙のやり取りに努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間流れの中で本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者が会話の中に入りたいなじみの名称(職業や立場など)も時には入れ、そのときしたいことを一緒に取り組んでおり、ひとつの家族のようなやりとりがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや発症経過シートなどを基に情報集収に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人に、担当の職員が付いて、月に一度のサービス担当者会議でADLについての経過を報告し常に、状況を全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議に於いてはよく話し込み変更があった場合はミーティングや変更マニュアルを通じ全員が周知徹底するよう努める。	従来のプランも丁寧に作製されているが、本年度からセンター方式を取り入れており、更に充実した内容となっている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人に、職員が施設介護経過を書いて介護計画の継続か見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さなユニットの特性を生かしきめ細かなサービス対応に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小さなユニットならではの個別ケアは特に注視して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望は、もとより医療との信頼関係は常に良好であるよう努めている。それが双方の安心に繋がることであると思う。	定期的な受診のほか、24時間対応の医療機関と連携システムが構築されている。重度化やターミナルの場合は、かかりつけ医から施設の担当医に変われるよう、管理者ならびに職員が日頃から状況を把握し、橋渡し役をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護サービス等の変更マニュアル等を利用し、DRや訪問看護ステーション等の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携ができており、十分な対応ができるよう確立されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における医療体制指針に則り協力医療機関などの支援を受け、ご家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	ターミナルケアについては職員の大半が経験があり、家族の想いの深さやケアの困難さは理解、共有できている。また、終末期に対する対応方針を定めてあり、本人ならびに家族と意思確認書を交わし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去の前例から、しっかりと学び教訓として実践できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の通報及び対応の手順等のマニュアルがあり協力体制ができている。	防災訓練や運営推進会議を通じて、地域住民や消防署の協力体制を得ることができている。また、災害時の具体的な避難対策についての話し合いも繰り返し行われている。また、近隣に湧水もあり、災害時の水源もある。	近年の対策データによると、食糧の備蓄よりも防寒具とのことであるので、こちらの準備もしておくことが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人の尊厳を常に厳しく話している。名前は名字で呼ぶようにしている。	個人情報保護法の方針、個人情報の利用目的が施設内に掲示されており、外部研修にも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから声掛けしたり、また話の中に出てきた事は、叶える努力を忘れない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や天候など考慮しつつ1日の過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔や着やすさと共に、その人らしいコーディネート心を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	活動できる入居者と一緒に、畑での収穫を楽しんでいる。	季節の食材の彩を目で、またいくつかの味の違いを舌で楽しめるメニューである。皿も一つひとつ吟味された味わいのあるものである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事量や水分量が、チェックリストによりわかるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に対応した口腔ケアで、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	サービス担当者会議で、常に最善の方法を選択できる体制で臨んでいる。	チェックシートなどにより習慣を把握したうえで、表情や言動などから判断し、自然に誘えるよう心掛けている。また、水分摂取量にも気配りし、食欲を増進するメニュー開発にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や飲食物の工夫など、個々に対応した排泄のコントロールを実施し、排泄チェック表で管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全を第一とするように、職員が多く出勤している日を入浴日としている。入浴の仕方や時間は好みを大切にする。	入浴の順番などを利用者と話し合いながら決めたり、単に清潔というだけでなく、楽しめるものに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者にとって心静かな生活が送れる場、安全が確保されている場であること心がける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や目的について職員全体で、共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外食、読書、おやつ等それぞれに合うよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に空気の良い所に位置するので、短時間であっても頻回に出かけられるよう支援している。	1号線は近いが田園地帯と住宅街の境に位置することから、散歩にしやすい。また、単調にならないようコースを変えるなどの工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人は持っていませんが買い物に行く際には、お金を渡して見守るようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのレベルにある方には、促して支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生花や鉢植えを欠かさず、置物などで季節感が出るように工夫している。	生花と鉢植えの色とりどりの花々がコーナー毎にあり、心と温かな雰囲気がある。また、利用者や職員から花について解説があり、コミュニケーション材にもなっているようだった。備品棚などの細かな面において整理整頓が行き届いており、日頃から5Sが徹底していることがうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方の居室での、微笑ましい光景は、しばしばみられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物は、自宅から持ってきている。急激な環境の変化を避けることが本人の精神的安定になっている。	馴染みの家具や好みの小物や写真などがあり、その人がその人らしく暮らせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の出来る力を大切にそれぞれが、日常的に行ってもらっている。		